

パレスチナ暫定自治区・ヨルダン川西岸にあるビリン村。
イスラエル政府が作った分離フェンスを境に、生活格差は広がる一方だ。
そして、さらに止まない抑圧の毎日—
若者たちがとった行動は、非暴力の闘いだった。

ビリン・闘いの村

—パレスチナの非暴力抵抗—

監督・撮影・編集：佐藤レオ 製作：HAMSAFilms

2007年 / 日本 / ビデオ / カラー / 16:9 / 61分 / ステレオ / 英語、アラビア語、ヘブライ語、日本語字幕

協力：NPO VOICES 配給宣伝協力：アップリンク 配給：HAMSAFilms

<http://www.uplink.co.jp>



ピリン・闘いの村

—パレスチナの非暴力抵抗—

パレスチナ暫定自治区・ヨルダン川西岸にあるピリン村では毎週金曜日、イスラエル政府の建設した分離フェンスに対するデモが繰り広げられる。強大な軍事力を持つイスラエル軍に対し、ピリン村の民衆委員会はパレスチナ人、イスラエル人そして外国人の活動家たちを率いて、非暴力を掲げ闘う。

イスラエル政府の建設する分離フェンスにより生まれているのが経済格差。グリーンライン（停戦ライン）と分離フェンスの間の土地にはイスラエル人の高層マンションが次々に建ち並ぶというのに、パレスチナ側ではヤギを追う生活なのだ。その差たるや、東西ドイツの場合の比ではない。そして、パレスチナ側には水さえも十分に送られない。イスラエル兵による検問や尋問は日常茶飯事に行われ、人々の暮らしに支障をきたしている。あらゆる面で「兵糧攻め」にされた村は、ますます窮地に追い込まれていく。

長く続くが故に、人々の心深くまで侵すこの問題。「解決には、イスラエルへの外からの圧力が必要だ」（イスラエル人ドキュメンタリー作家のシャイ・ポラック）だからこそ若者たちも、非暴力のデモで状況を世界にアピールしようとする。そして、「デモは、カメラがないとデモにならない」（イスラエル人活動家・ヤーリ）

カメラとはつまり私たちの目であり耳。彼らが闘いを通して伝えてくるメッセージを、まず受け止めなければ。

この作品は、遠く離れたピリン村と私たちの対話の場でもある。



アブドゥッラー アブ ラハマ デモ・コーディネーター

“我々はデモに兵士を殺しに行くわけではなく、メディアに分離壁のことを知ってもらい、「非暴力の平和的方法によって土地を取り戻したい」と人々に伝えたい”

マンズール マンズール ISM コーディネーター

“ISM（国際連帯運動）は目撃者として機能するために、そしてパレスチナ人の非暴力運動の概念を広めるために作られました”

ムスタファ サムハ ISM メンバー

“俺らの中には、何の問題も、障害も、国境もないんだ。
俺らはただの人間であり、自由と権利のために闘っているんだ”

ヤーリ 活動家

“もしデモにイスラエル人や外国人がいなかったら、
パレスチナ人達は殺されるんだよ”

ワジー 農業経営

“私たちが占領下に置かれている限り、また占領をいくらか合法であると
国際社会がみなす限り、私たちの苦悩に終りは無いでしょう”

B. J. ISM メンバー

“突然多くのデンマーク人がここで起こっていることに興味を持ったんだ。
「デンマーク人がピリンで撃たれた」ってね”

シャイ ポラック ドキュメンタリー作家

“ピリン村で起こっていることを見れば、共存の可能性はあると私は思います。
友情を持って、平和に、平等に、共存するということです”

2008年8月2日(土)より アップリンクXにてロードショー

特別鑑賞券 ¥1300 (税込み) 劇場窓口にて発売 当日料金：一般¥1500/ 学生¥1300/ 小・中・シニア¥1000

8月2日(土)～8日(金) 11:30/16:30 8月9日(土)～22日(金) 16:30

8月23日以降のスケジュールは、UPLINK Xへお問い合わせ下さい



アップリンクX 渋谷区東急本店右側道 200m先右手

東京都渋谷区宇田川町 37-18 トツネビル2階 TEL: 03-6825-5503

<http://www.uplink.co.jp>

